

TURNUS

やまぐち暮らしを
始める。



山口の地酒の魅力を伝える出張角打ちを渋谷で不定期開催。

出張角打ちで妻・絵梨さんと出会い、意気投合したのちに結婚。

平成28年、結婚を機に東京出身の絵梨さんが、下関市に移住。

山口での酒ツーリズムなどまちの魅力を伝えるイベントに取り組む。



(上)閉店後は1日5名限定で角打ちを開催するほか、渋谷ヒカリエ「d47design travel store」での出張角打ちや、「d SCHOOL 角打ち酒の会」も不定期で開催。(右)創業30年の老舗酒屋2代目ご夫婦の健蔵さんと絵梨さん。仕事帰りにふらっと立ち寄れるような場所にするのがお二人の理想。



▲三方が海に開かれ、自然に恵まれた山口県は海の幸、山の幸が自慢です。

地酒のまえつる
下関市山の田本町15-11
<https://jizake.link/>



「自然や食材から得られる幸福度が高いんです。美しい海や山は、元気になる場所。100%完全移住ではなくても、まずは住んでみて」
前鶴さん夫妻のような「人」を伝えていくことでしか知り得ない、ネットの情報にはない「やまぐち暮らし」の魅力がまだまだありそうだ。

「自然や食材から得られる幸福度が高いんです。美しい海や山は、元気になる場所。100%完全移住ではなくても、まずは住んでみて」
前鶴さん夫妻のような「人」を伝えていくことでしか知り得ない、ネットの情報にはない「やまぐち暮らし」の魅力がまだまだありそうだ。

山口のものを中心に、全国の地酒や焼酎を取り扱う「地酒のまえつる」の2代目・前鶴健蔵さん。店内には自慢の地酒がずらりと並び、ネット販売で全国にも届けている。
健蔵さんが絵梨さんと出会ったのは、渋谷ヒカリエ内「d47design travel store」で開催した山口の地酒の魅力を伝える角打ちイベントだった。絵梨さんが健蔵さんの地元で、お店のある下関市に移住したのは平成28年6月。「同世代の方が多く、初めての土地でも仲良くできたのかな。ネガティブな所を切り取るのではなく、良い所を探すことを楽しむのがコツです」と絵梨さんは言う。

山口は有数の日本酒の産地だ。お酒だけでなく、

「食」 やまぐちの

生き生きとした食材と
美しい自然から生まれる
幸福なひととき

山口のものを中心に、全国の地酒や焼酎を取り扱う「地酒のまえつる」の2代目・前鶴健蔵さん。店内には自慢の地酒がずらりと並び、ネット販売で全国にも届けている。



(上)阿東文庫内のラボでバンブーバイクの制作に取り組む明日香さん。(右)北東部に位置する阿東地区は美しい田園風景が広がる。(左)軽量かつ強度のあるバンブーバイクはスタイリッシュで美しい。



(上)挑戦を続ける井上さんは活き活きとしている。(右)日本海を見下ろせる美しい東後畑の棚田。夜になるとイカ釣り漁船の漁り火が輝く。(左)断崖に続く赤い鳥居のある元乃隅神社。123基が並ぶ鳥居は圧巻。



やまぐちの「山の暮らし」

ものづくりをきっかけに
バンブーバイクで
サステイナブルな地域おこし

システム開発を本業とする明日香健輔さんが山口市阿東地域に移住したのは平成19年3月、この地域にとっては150年ぶりの移住者だった。明日香さんは本業の傍ら、地元の和菓子店の継承や『阿東文庫』という廃校を活用した図書館を運営している。「家族で田舎暮らしを検討していたものの良い縁がなかったのですが、阪神淡路大震災を機に移住を決めました。」と話す明日香さん。明日香さんはインドネシアで地域課題解決に取り組むデザイナーの活動「spedagi」を手本に、バンブーバイクの製作と地域活性化にも取り組んでいる。「今はインドネシアのバンブーを使ったフレームですが、阿東産での試作も完了しています。これに乗って山口市内を巡ってもらおう『サステイナブルな地域おこし』を目指しています。」環境に配慮したバンブーバイクは、阿東文庫のある廃校内のラボで製作されている。ここにはものづくりに懸ける想いと、未来へのチャレンジが溢れている。

やまぐちの「海の暮らし」

結婚をきっかけに半島に移住。
人生最大の転機と
新たな挑戦。

美しい棚田と豊かな海が続く長門市向津具(むかつく)半島。平成16年、株式会社百姓庵の井上かみさんは結婚を機にこの半島に移住した。「OL時代にオーバーワークで体を壊してしまつて。生きるのか働くのか何だろうと考えていた時にここへ。自分の人生について一番考えました。」夫婦水入らずの新婚生活は土地の開拓から始まった。「畑仕事は機械を使わずに全て手作業で」というのが主人のモットーなので、田畑を耕すところから。無農薬無化学肥料でお米を作ったり、ヤギを飼って絞ったお乳でチーズを作ったりと自給自足の生活でした。」と井上さん。夫婦で民宿として始めた百姓庵も15年。現在は「百姓の塩」の製造販売にも取り組んでいる。「塩作りは10年目。綺麗な海を後世に繋ぎたいという主人の志がきっかけでした。お塩は海が豊かでないといけないし、海は森が豊かでないといけないんです。」暮らして仕事を楽しんでいる井上さん。百姓庵を通して土地への恩返しをするため、新しい場所での挑戦を続けている。



spedagi japan
山口市阿東徳佐上3656 番地1
<http://spedagijapan.com/>



株式会社百姓庵
長門市油谷向津具下1098-1
<http://hyakusho-an.com/>



大手旅行会社に入社。OL時代にはトップセールスを果たす。オーバーワークで体を壊す。「生きる」「働く」について考える。手掴みで蛸を獲る人がいると聞き向津具半島に。人生最大の転機！結婚を機に移住。自給自足の暮らしと新しい仕事を楽しむ日々。



(上)店内はどこか懐かしく、落ち着いた空間が広がる。(右)白壁の街並みを柳井市のシンボルである金魚ちょうちんが彩る。(左)灯をともした金魚ちょうちんはとても幻想的



(上)地元への想いから新たな挑戦を続ける沖野さん。(右)関門海峡を一望できる「uzuhouse」の屋上。(左)宿泊者やカフェの利用者で賑わう店内。シェアオフィスやイベントスペースでも利用できる。



やまぐちの「文化」

父の覚悟に応えたい。明治27年創業の老舗文具店が目指す地元ならではのお店づくり

国内有数の日照時間の長さを誇る町、柳井市。白壁の町並みに佇む「木阪賞文堂」は明治27年創業、今年で創業125年を迎える老舗文具店だ。4代目・木阪泰之さんは家業を継ぐため、生まれ育ったこの町に帰ってきた。「関東で働き始めて約4年後、父から手紙が届いたんです。もし帰ってこないなら廃業すると。覚悟を決めた父の想いを感じ、迷うことなく柳井に帰ることを決めました。」と木阪さん。今は「つくれる文具屋さん」をコンセプトに、地元のお客様のライフスタイルに応じて文具を活用した商品開発に取り組んでいる。「せっかくなのでこの町に暮らしているのだから、利益は一旦置いておいて『町の文房具屋さん』として生きていく方法を考えました。覚悟さえあれば住めば都。逆境もとても楽しく思えてくるし、そういうマインドの人が集まってくるから面白い。柳井で働くのって楽しいですよ!」

「町の文房具屋さん」として生きていくー4代目の地元愛溢れる白壁の町は、これからは色褪せず色褪せずに色々々な人を呼び込んでくれそうだ。

やまぐちの「まちの暮らし」

広大な関門海峡に臨むゲストハウス。空間のシェアから生まれる新しい刺激

建築を学ぶために上京した沖野充和さん。建築設計事務所を営む傍ら、関門海峡を臨む築43年の割烹旅館をフルリノベーションしたゲストハウス「uzuhouse(ウズハウス)」を運営している。平成28年4月、沖野さんはウズハウスを立ち上げるため出身地である下関市に移住した。「東京で出身地を伝えると『ふぐ』の話か、通過したことがあるとしか言われなくて。地元の人だからこそ知っているのもっと良い所を伝えたくて始めました。」「移住者が加わることでそこに住むみんなにとってはひとつの刺激となる。刺激は新しい発想につながって、まわりが良い影響を及ぼすことが多いと考えています。移住は簡単なことではないけど、気軽に飛び込んできて欲しいし、例えばウズハウスに来て話かけてもらえれば。」と沖野さん。1年前には、下関のPRを目的としたローカルウェブメディア「かんもんノート」を立ち上げた。地元への想いから移住を決意し、活動を続ける沖野さん。次のアクションから生まれる新しい刺激が楽しみだ。



木阪賞文堂
柳井市柳井津452番地
<http://www.sirakabe.com/>



大学進学のため故郷を離れ、卒業後は関東の生命保険会社に入社。父親からの手紙を受け、「木阪賞文堂」を継ぐことを決意。

同じく関東に勤務していた島根出身の奥さんを連れて、柳井市へ移住。

「つくれる文具屋さん」として地元で特化した商品開発も行う。



uzuhouse(ウズハウス)
下関市阿弥陀寺町7-8
<https://uzuhouse.com/>



建築学科のある大学へ進学するため上京、建築家の道へ。

ゲストハウス立ち上げのためクラウドファンディングを実施。

「uzuhouse」の立ち上げをきっかけに地元・下関市に移住。

ゲストハウス×ローカルメディア×建築家として多角的に活動中。

山口県への交通アクセス

新幹線



飛行機



自動車



お問い合わせ

やまぐち暮らし東京支援センター ☎03-6273-4887

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階 NPO法人ふるさと回帰支援センター内

Facebook: <https://www.facebook.com/yamaguchi.uji/>

やまぐち暮らし大阪支援センター ☎06-6341-0755

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-4-13 阪神産経桜橋ビル2階

やまぐち暮らし総合支援センター ☎083-976-0277

〒754-0014 山口県山口市小郡高砂町1-20

<https://www.joby.jp/uturn/>



「やまぐち」のY、「わいわい楽しい暮らし」のYを組み合わせた、山口県へのUJIターンを意味するキャッチフレーズです。



YY!ターン支援サイト「住んでみいね!ぶちええ山口」

パスポートや交通費補助など、詳しくはコチラ!

<https://www.ymg-uji.jp>

